

巻頭言「時代の変化の中で不変なもの」

一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター(JPNIC)ではインターネットの歴史年表を日本語と英文で公開しており、海外からも反響をいただく。その歴史を振り返ってみると、日本国内で多くの人がインターネットを使うようになったのは1994年のことである。この年に幕張でInteropが初めて開催された。雑誌の『iNTERNET magazine』が創刊されたのも1994年9月である。この雑誌は2006年3月に惜しまれつつ休刊したが、2017年11月に『iNTERNET magazine Reboot』として1号限りの復活を遂げた。その内容は今日の趨勢を踏まえ、AIやブロックチェーン、IoT、xTechなど、今回の白書で取り上げているテーマが並んでいる。

この復活号には2つの付録が付いている。1つは当時のプロバイダー接続マップの復刻版である。初回の1995年から最終の2001年までを見ると、国内のネットワーク接続がいかに高度に複雑になってきたのかが分かる。もう1つの付録は『iNTERNET magazine』創刊号の復刻版だ。個人的な話だが、私は「後藤滋樹の新・社会楽」というコーナーをこの創刊号以来、101回続けて執筆した。

復刻版にはさまざまな人が登場し、(1994年当時の)自分たちが考えるインターネットの未来について語っている。それぞれ表現は異なるが、ネットワークが発達して情報が共有され、大きなメディアになるであろうという未来予測である。それはまさに、現在のインターネットの姿となった。

一方で、インターネットは今も爆発的に発展している。IoTでは当時想定されていなかった機器もどんどん繋がるようになっている。今回2018年の10大キーワードとして挙げた5GやLPWAも、IoTを発展させるに違いない。

このように変化した風景の中で、今も昔と変わらない大切なものがある。それは人と人との繋がりである。インターネットが直接に接続しているのはコンピューターであるが、そのコンピューターは人間のすぐ近くにある。インターネットが発展した背景には、相互接続や連携の拡大に尽力してきた多くの人々の知恵と努力があり、今後も発展し続けるために英知と協力が必要だ。

現在はAIが発展しつつあるが、AI技術は全自動を意味しない。これからも我々はテクノロジーの力を有意義に使いつつ、皆が協力してインターネットの発展に取り組んでいきたいと思う。

2018年1月

一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター(JPNIC)

理事長 後藤 滋樹



1996, 1997, 1998, 1999, 2000, ...

[インターネット白書ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2018年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<https://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容（技術解説、データ、URL、名称など）は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者（執筆者、写真・図の作成者、編集部など）が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元（株式会社インプレスR&D）などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D（初期は株式会社インプレス）と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。が、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接的および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp

©1996-2018 Impress R&D